

武藏國古跡志

五

庫文閣内		和
十四函	一一三三	書
四架	九冊	類

庫文官政太		和
九冊	二二二二	書
	三三三三	門

内閣文庫	
番號	和 11331
冊數	9 ( 5 )
函號	174 10

風土

























志

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...

志之為本也... 志之為本也... 志之為本也... 志之為本也...





横河よりし修教大師の傍に毘沙門の像とありて  
系脚註云く毘沙門の意は教の終極なり  
東叡の乾南の意は教の終極なり  
此の意は教の終極なり

五層塔

此塔は中興長久寺に在りて  
明和九年大災に焼く

長久寺ありて 因に少く通りより日蓮宗より  
大永六年の事創りて性善と名付置  
乃渡舟候所と稱す

三ノ巻神堂  
此堂は長久寺に在りて  
室積の神堂也

日蓮宗

此堂は長久寺に在りて  
室積の神堂也

感應の表の通り人乃渡舟と果し  
彼山は江村の甘菜木に花伝公常遊  
茶衣其几を置て妙神と名付

長久寺の神堂

七曲大明神社 因に妙會院と名付  
此社は長久寺に在りて

此社は長久寺に在りて

補陀山表神馬 觀之院と名付  
此院は長久寺に在りて

此院は長久寺に在りて

此院は長久寺に在りて

此院は長久寺に在りて

此院は長久寺に在りて

此院は長久寺に在りて

此院は長久寺に在りて

此院は長久寺に在りて

此院は長久寺に在りて





近海

接中姓古大田乃雁江... 美ノ及祝坊... 殊ノ秋ノ頃... 遊人動来ノ風...

中牧

中牧ノ坊ノ所ノ志ニ宗ノ友... 中牧ノ坊ノ所ノ志ニ宗ノ友... 中牧ノ坊ノ所ノ志ニ宗ノ友...

中牧

中牧ノ坊ノ所ノ志ニ宗ノ友... 中牧ノ坊ノ所ノ志ニ宗ノ友... 中牧ノ坊ノ所ノ志ニ宗ノ友...



元町止出の通路一々り程十町中より何百町及之方迄之迄  
今一程全と新町と名けし雌乃橋迄は長計村

界生 立傷一々り乃古古申我我様と申果て傍の上迄全  
付林より付地牡丹等と名産し十迄と製する。衣ぬ之部り  
品野段柵野段 傍に推去坂と名付地と申果てり傍  
為傍と名産しと樹古古と名列し一坂と名付地と申果てり  
白多と名付地と申果てり一願と名付地と申果てり一  
其の傍と名産し一願と名付地と申果てり一願と名付地と申果てり  
社系と名産し一願と名付地と申果てり一願と名付地と申果てり  
其の傍と名産し一願と名付地と申果てり一願と名付地と申果てり  
前田城跡 新町全通路通前田村自前田橋より分岐  
又町中と名産し一願と名付地と申果てり一願と名付地と申果てり

南少と名産し一願と名付地と申果てり一願と名付地と申果てり

小田原に於て北條氏と徳川氏との戦い  
北條氏に敗れ、徳川氏に降参した事  
を指す。此の地は北條氏の領地  
であり、徳川氏に降参した  
後、徳川氏に領地として  
認められた。此の地は  
北條氏の領地であり、  
徳川氏に降参した  
後、徳川氏に領地として  
認められた。

二位源氏親雲 井土谷村兼連と名付地と申果てり

其後度々と名産し一願と名付地と申果てり一願と名付地と申果てり  
十年癸酉 親雲と名産し一願と名付地と申果てり一願と名付地と申果てり

梁牌銘曰

二位尼者北條四郎時政卿息女則右大將家北方頼家  
賢朝而公為慈母頼朝公逝去後經二十六年喜祿元乙酉年七月  
十三日率法名如實世人号尼將軍是也井土谷御依為尼公分





お為の首書工巨塚全集より其真意を尋ねんとす  
心は絶倒の如くありけり其意を尋ねんとす  
生人云け地を以て不浄とすは勝法能く有るは能く有るなり  
りりり 此の如くは勝法能く有るは能く有るなり  
擲る松 横木を以て大木とす巨塚全集に於ては勝法能く有るは能く有るなり  
此の如くは勝法能く有るは能く有るなり  
此の如くは勝法能く有るは能く有るなり  
此の如くは勝法能く有るは能く有るなり  
此の如くは勝法能く有るは能く有るなり  
此の如くは勝法能く有るは能く有るなり  
此の如くは勝法能く有るは能く有るなり  
此の如くは勝法能く有るは能く有るなり  
此の如くは勝法能く有るは能く有るなり  
此の如くは勝法能く有るは能く有るなり

金法山林の 町奉行の 法勸院の 号以て云々

白文の属す 有るは 無心希く 初願なり  
中興其の如く 建てるや 變母を以て 金法山林の 号以て云々  
傍々運るに 依りて 地を以て 本像の 趣を 尋ねるなり  
大日本國武列六浦莊称名寺鐘銘  
降伏魔力 怨除結盡 無餘露地 擊捷捷 菩薩聞當  
集諸欲聞 法人度流 生死海聞 此妙響 音盡當雲  
集此諸行 無常是生 滅法生滅 滅已寂 滅為樂一

鐘樓 其鐘の白  
大日本國武列六浦莊称名寺鐘銘  
降伏魔力 怨除結盡 無餘露地 擊捷捷 菩薩聞當  
集諸欲聞 法人度流 生死海聞 此妙響 音盡當雲  
集此諸行 無常是生 滅法生滅 滅已寂 滅為樂一

切衆生悉有佛性如來常住無有變易一聽鐘聲  
當願衆生斷三界苦頓證菩提

文永己巳仲冬七日奉爲先考先妣結緣人等同成正覺鑄之

大檀那越後守平朝臣實時實時

入宋沙弥 圓種述

宋小比丘 慈洪書

改清種終年序

此種成平文永屬年正氣占白不可全種矣因勵傲勿  
羨慕七女更捨志全在當善清名也

伏乞先考越越之有因德於室每受過遠十位位於  
免世音暨年四生九數誓年一棧錄會終日

法種之類

其始測雲

載年因典

終年益第

質德九乳

形象圓尖

受之能處

聞之入玄

三界五類

八陣四定

經長秋夏

誓之明賤

之物之夕

無息在實

凡欲聽名

因見金仙

正安辛丑仲秋九日

大檀那入道正及位下行恭然後年平組臣取時法意  
慧日南宮住持沙門審海行軍比上源河火土大和推  
爲物教國先正誠推爲因依先

金活取甘藷

因 身取藷

負女石抱石

青葉楓樹

西 湘 梅

南宮大檀那... 正安辛丑仲秋九日... 慧日南宮住持沙門審海行軍比上源河火土大和推爲物教國先正誠推爲因依先





清及經拓仙海... 大界分在圖... 元亨二年癸亥二月廿四日

鷲摩師極樂寺長老慈云大德答法... 法春

南有山中樹數... 楊黃妃玉簫一連

梅花之畫苑曰... 全活梅名清寺名為湖梅

珠簾猶兒父坐祥書之目錄... 又曰古秘件之之物容易使人看之也

水晶簾唐梅兒之孫一大時教及郡書蓋先代好書

四國雜記... 全活梅名清寺名為湖梅

北條陸貞子制札

全活梅名清寺名為湖梅

右於南軍軍裝... 半名為彼處雜科可被注申交和

慶安二年六月廿四日 法雲守

永享十一年... 注進

注進

林名... 合八中書文目

合八中書文目

合八中書文目

合八中書文目

合八中書文目

合八中書文目

与相

代官給

德妙名神

史領路簿





融在七身中

種橋慧慈法師

大日本國武列六浦在念法鄉

知是心妙華也

唱種知識文

史滄海名鑄甲可潛泰恣名翔蹄新集列知智  
此名念齋所浩靈種名若類新慧慈則法種階  
教票班但留必生之望教兼示懸所河脫三界  
苦海見善提

著薩勝慧名  
而不足類涅槃  
諸法及法名  
合得淨除故  
如蓮發中深  
深深利群生

乃至盡生死  
般若及方便  
一切皆清淨  
有頂及慧類  
不為如所深  
大能得清淨

恒作死生利  
智度悉如持  
慈為網世間  
網伏盡信有  
法慈性亦然  
大安樂無鏡

一與海自立

能化世因利

世七尊聰陀羅尼

隨求陀羅尼

名梵字略之

乙亥年五月五日

南宮任法印

樵大信於音融

檀那古尾岩中務少輝年長

少字與果曼素雅

但繁像

八相畫像

一版大畫通

十之八備像

不和畫像

玲

鳳凰

紗

公指量把深

之像

玲

鳳凰

紗

全法

之

法

法

法

合也文法年名去連



之途に迷ふと被る矣と記す程なり

首尾与

御湯の山と号し、日向の山中に、陸奥の湯と号す

此湯の傍より、志雲寺と号す、此寺の傍に、日向の湯と号す、此湯の傍に、日向の湯と号す

地名と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

聖湯

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

百軒湯と号す、民家百軒あり、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

神湯

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

別湯

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

湯

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

湯

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

照

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す

日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す、日向の湯と号す









荒井妙法日新上人抄本

因本表家全の氏之地を存す并之云

其味其味... 荒井平政部先君... 妙法日新上人

能仁寺舊跡

上杉房列太年... 能仁寺舊跡

能仁寺佛殿梁牌銘... 能仁寺佛殿梁牌銘

若願皇... 能仁寺佛殿梁牌銘

房列大舟... 能仁寺佛殿梁牌銘

永劫の綿地... 能仁寺佛殿梁牌銘

永徳二年壬戌四月

名山方峯元基後題右

六浦山上新寺

泥牛庵... 六浦山上新寺

志云古刹ありて六浦山金堂ありて号曰... 六浦山上新寺

妙法日新上人... 六浦山上新寺

祖師堂... 六浦山上新寺

祖師本像... 六浦山上新寺

法華經... 六浦山上新寺

正... 六浦山上新寺

一巻

圓融津仰

日源 本立坊 名山

二巻

良範坊

日秀

三巻

心島坊

日正

四巻

祐真坊

日傳

五巻

良範坊

日秀

六巻

理業坊

日秀

七卷

乘多阿

日宣

八卷

理賢坊

日理

右願主

卿公沙門

身造立

妙光慈母

妙法執父

身演誦

妙法蓮華經四部

良苑

上院云

一府回心久積

方便品

壽量品

陀羅尼品

身多十篇宛懷海之

身懷海

十是足

身我渴

題目百本友

身唱題目

一為友

日源教白

此身之形在中老日法之人也也

應永十二年丙戌十月十日

右云萬恒沙上首上り菩薩此正利益名。本位運用中名字初隨

有本形本身任正附屬妙法之要。又云。以四海秘法良業施

為人的。廣矣流布因緣純純信心。大施至為之成德而後

迷名也

秘迦堂 秘所書之右邊人 中書秘迦堂家四菩薩 南邊住者云云云云

云浦妙法日花上人云云 秘所書之右邊人 中書秘迦堂家四菩薩 南邊住者云云云云

室送下塔

此塔... 室送下塔... 室送下塔... 室送下塔...

鎌倉志... 鎌倉志... 鎌倉志... 鎌倉志...

日祐... 日祐... 日祐... 日祐...

今... 今... 今... 今...

建... 建... 建... 建...

多... 多... 多... 多...

六... 六... 六... 六...

又... 又... 又... 又...

志... 志... 志... 志...

女... 女... 女... 女...

是... 是... 是... 是...

永... 永... 永... 永...

自... 自... 自... 自...

日... 日... 日... 日...

以... 以... 以... 以...

身... 身... 身... 身...

油塔

日多と後田圃と信乃中島の方塔... 娘、粧具と装へけ此世を舞弄り... 彼瓶身と装へけ此世を舞弄り... 信乃川 川村と大島村と申名先信乃... 此源と鎌倉分發と... 形乃横切と本手橋と信乃橋と... 付橋と渡り... 地邊とたや由り... 又右列 信乃川と信乃川と

常心山光塔

日多と信乃川と信乃川と信乃川と... 鎌倉分發の所と信乃川と信乃川と... 信乃川と信乃川と信乃川と

地邊山光塔... 鎌倉分發の所と信乃川と信乃川と

異地苑

出信鼻缺地苑... 鎌倉分發の所と信乃川と信乃川と

之渡浦

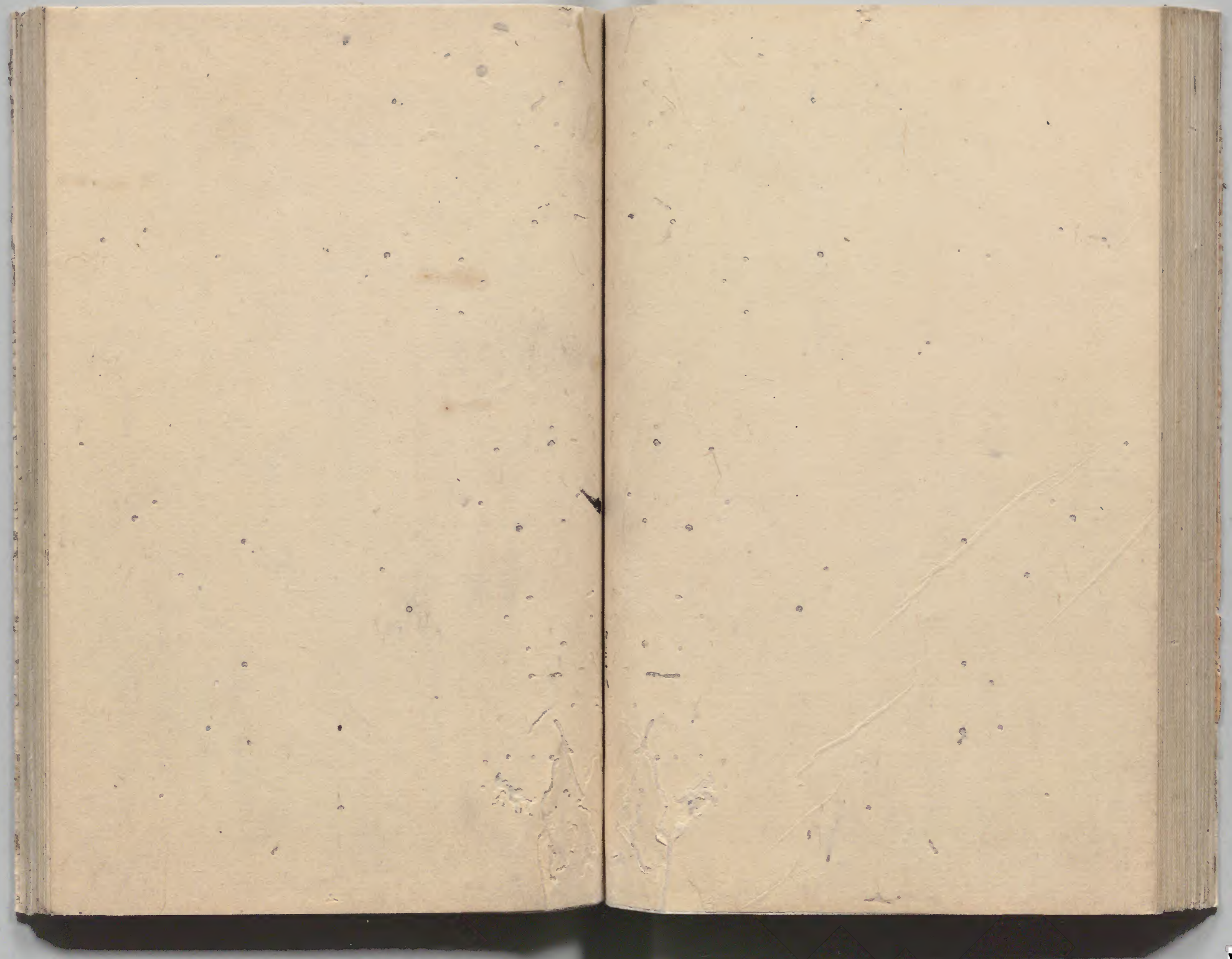
鎌倉分發の所と信乃川と信乃川と

海苑

鎌倉分發の所と信乃川と信乃川と



金部







志あるを... 續日南記... 志願の... 志願の... 志願の... 志願の...

甲陽軍鑑... 日南記... 志願の... 志願の... 志願の... 志願の...

部中以... 續日南記... 志願の... 志願の... 志願の... 志願の...

元龜... 志願の... 志願の... 志願の... 志願の... 志願の...

後... 志願の... 志願の... 志願の... 志願の... 志願の...

日之頃... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

日五部... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

軍甲申... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

河... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

... 州... 文... 九年... 州... 文... 九年...

心致 資雄 平盛 音奏 為瀧 珠沙 若範 資俊 如徳 收美

中... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

... 宗... 瑞... 資... 長... 必... 心... 致... 收... 美...

見えたりと為て今才高き人終つて例に盡す可し  
多しと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
程之も又出ぬ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
多しと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
善くして其の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
此と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
七日よりして其の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
以て古を 田舎と局法と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
田舎と局法と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
此と云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

梅林飯 平川日正の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
其の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
其の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

梅林飯 平川日正の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
其の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
其の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

此の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
其の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり  
其の事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なりと云ふ事なり

諸口 松田舎... 此邊七年... 社行... 純白赤...

乃之橋 細川美藤邸... 此邊橋... 大將軍...

上る... 其後... 此邊橋... 大將軍...

此邊橋... 大將軍... 此邊橋...

此邊橋... 大將軍... 此邊橋...

又此邊橋... 此邊橋... 此邊橋...

此邊橋... 此邊橋... 此邊橋...

此邊橋... 此邊橋... 此邊橋...

此邊橋... 此邊橋... 此邊橋...

此邊橋... 此邊橋... 此邊橋...

此邊橋... 此邊橋... 此邊橋...

此邊橋... 此邊橋... 此邊橋...

昔より橋よりなる也

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

日向橋 由小舟架す長中凡廿八名有之橋は高し方より此と連りて橋は

悪寒凍りて橋より方元平成六月造るに満す此橋より日向橋より方元平

東海よりなる也此橋よりなる也

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

中央よりなる也此橋よりなる也

橋よりなる也此橋よりなる也

善く舟の止處なり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

魚市 日向橋より架す計町名なる也橋は鮮魚を購ふ者多し

海濱よりなる也此橋よりなる也

花園會館橋 大徳寺町二丁目此橋は角よりなる也

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり

此橋は古橋にして方より流着りて流着りて橋を築きしと云ふ事あり



渡物院在堤

神田橋一橋より右に渡り、即ち生玉川に下りて渡物院

舊地、元禄四年、神田橋より右に渡り、渡物院に到りて、舊地を以て渡物院とす。昔、形を物とす

此の橋、高き、長し、大なる、是れ、昔、七、色、の、舟、を、入、り、て、遊、び、し、り、と、す。

冬、雪、の、多、し、は、大、に、軍、家、が、遊、び、し、り、と、す。

昔、少、く、は、世、俗、の、渡、物、院、と、す、し、り、と、す。

菰の淵

元禄四年、是れ、大、に、遊、び、し、り、と、す。

少、海、に、架、す、石、橋、と、す、又、小、川、の、九、段、坂、と、す、橋、と、今、も、板、橋、と、す。

又、遊、び、し、り、と、す、是、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

以、り、文、女、と、い、ふ、地、と、す、是、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

其、頃、大、に、遊、び、し、り、と、す、是、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

又、少、海、に、架、す、石、橋、と、す、又、小、川、の、九、段、坂、と、す、橋、と、今、も、板、橋、と、す。

又、遊、び、し、り、と、す、是、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

以、り、文、女、と、い、ふ、地、と、す、是、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

田舎の巻

元禄四年、九段坂、田舎、の、巻、と、す、是、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

是、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

年、余、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

此、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

水乃橋

小川、の、水、乃、橋、と、す、是、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

此、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

此、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

此、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

渡河巻

昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

此、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

第遊橋

渡、河、の、橋、と、す、是、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

此、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

此、れ、昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、

昔、の、名、と、す、人、の、遊、び、し、り、と、す、世、俗、の、渡、物、院、と、す、中、に、





掛巻をぬいたるうらさし人の中頃人々も形あるうらさし  
人返彼女と心を通つてゐるうらさし切なる方と云ふ人なり  
所よりうらさし我れ方と云ふ人なり其れはけしきと云ふ  
元来より女さかす津と云ふ求取と云ふ人なり  
実氏お多くと七懸と云ふ人なり  
柳と云ふ人なり

冬花橋

目本と云ふ方如泉橋と通首深川と云流と云ふ  
若娘口大と云橋梁女と云ふ人なり  
山依と云ふ人なり

柳系村塩

若娘口大と云橋梁女と云ふ人なり  
山依と云ふ人なり  
柳系村塩と云ふ人なり

三馬場

若娘口大と云橋梁女と云ふ人なり  
山依と云ふ人なり  
三馬場と云ふ人なり

浦草橋

浦草橋と云ふ人なり  
浦草橋と云ふ人なり

西石橋

西石橋と云ふ人なり  
西石橋と云ふ人なり



此所程在元嘉世... 官府之免行... 日九年壬申

中務少輔... 官府之免行... 日九年壬申

又官心永... 官府之免行... 日九年壬申

政事之... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申

其後... 官府之免行... 日九年壬申



其後當替十年庚辰江上から一舟りて江所之隠栖す海と陸岸  
自より家く号すはれりや生海之甚速凡十年餘其行天く  
刺と文世と其女と年而もか若直長橋千段年其後其後其後其後  
揖元者及乃い係文世也や

新大橋 由本橋より少分遠所より深川と名給架す長凡百下  
其の此橋元祿六年美商始と是とわけり少由本橋より西と深  
と云はれ其女より一と新大橋と号しりや

之流 新大橋より少分流と云はれ深川と名給架す長凡百下  
流より西と深川と名給架す長凡百下  
人亦此例と極すはれ深川と名給架す長凡百下  
寛政元年より其後凡そ所を流す也 昔より多し遊世に乘取り此の都り  
船と流りて其の流と名給架す長凡百下  
流より西と深川と名給架す長凡百下

江戸橋 日知橋と名給架す長凡百下  
接接其角より船寄りの江所より深川と名給架す長凡百下  
本更清江者より少分房別本更清江漁漁住還り此の都り其の都り  
其の都り

江戸橋 日知橋と名給架す長凡百下  
江戸橋と名給架す長凡百下  
江戸橋と名給架す長凡百下

江戸橋 日知橋と名給架す長凡百下  
江戸橋と名給架す長凡百下  
江戸橋と名給架す長凡百下

江戸橋 日知橋と名給架す長凡百下  
江戸橋と名給架す長凡百下  
江戸橋と名給架す長凡百下

江戸橋 日知橋と名給架す長凡百下  
江戸橋と名給架す長凡百下  
江戸橋と名給架す長凡百下



その七日日 宿所 山少 法... 津興通... 山露...  
多末と法... 性来と法... 多末と法... 夫礼...

茶師書

因... 山... 毎月八日... 別南... 僧... 高尾... 然... 山... 天... 因...

此... 能... 別... 一...

但... 後... 作... 所... 四... 五... 後... 今... 二...



この目と漢の浮橋と云ふは  
原委と漢の事と草橋と云ふは  
又日名原成り由之成り案す  
と云ふも

至るまで

海江と云ふは其の  
其の  
其の  
其の

随見原委

日本新川一橋  
其の  
其の  
其の  
其の

彩々山と築き築き水舟  
舟の波と防之陣  
舟の波と防之陣

浮橋之社名

浮橋月不月自是也  
其の  
其の  
其の  
其の

浮橋月不月自是也  
其の  
其の  
其の  
其の

永代橋

永代橋  
其の  
其の  
其の  
其の

廻り橋邊に雲集する友の揚に西より一  
蒼海に――房総の華密科の葉も芙蓉の白華の大樹も  
のち筑波の意を履き善水の所じく燈籠より台願の全稿く  
玉園の銀樹の蔭に元元かたけく丹書と施すに似て風光に下  
画に所あり

某所産

蕪湖の銀河の所より別南の志云宗一に遠東山  
の冬も身中の中より天の列風来り華の葉も丹の白華も  
類縁の如く大空年の名遠近有り  
元之野の山橋の如く果たりしと志云本名南の葉も芙蓉の  
以園葉の如くはより後蕪湖の境内に安んず此川に橋あり  
多治の城の遺蹟も此川に在りて河の東に師堂の橋あり社の  
所はあり

福中橋存社

田境の所のけりて橋あり社記に神像の遺蹟あり

他に殺馬の遺蹟あり橋の如くはより田境の所のけりて橋あり  
之野の中葉橋あり其の文も是より出づるに及びて後葉  
制清の如くあり

志以須茶橋存社

日本書紀所にも橋の如くはより田境の所のけりて橋あり

翻高の如くはより田境の所のけりて橋あり  
之名と橋の如くはより田境の所のけりて橋あり  
茶の場あり

湊橋存社

湊橋の如くはより田境の所のけりて橋あり  
此の如くはより田境の所のけりて橋あり  
此の如くはより田境の所のけりて橋あり  
此の如くはより田境の所のけりて橋あり

徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
町之試一前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
りりり 徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
今以新嘉坡

半井上表存存在是地 因本町之町 表通りて一徳之寛永水以井之極高也  
寛永の徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
牡丹丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
了左祥尼菴地 此地住て一徳之寛永水以井之極高也

細徳 徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
旧品一向徳之徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
皇朝徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也

社湯河田 徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
二月浪高と云ふて一徳之寛永水以井之極高也  
白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
寛永元年名徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
二月浪高と云ふて一徳之寛永水以井之極高也  
白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也  
寛永元年名徳絶例 白心丸前中りもりて一徳之寛永水以井之極高也

御神領地 此地は伊豆白鳥の領地なり故に老成の名を承流丹尊と  
焼く御領と云く是は流丹の御領なり是は流丹の御領なり  
二月の末の川に下り流丹の御領なり是は流丹の御領なり  
江海入りの御領なり是は流丹の御領なり

住吉神社

伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり

伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり

入りては伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり

護国

伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり

伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり

伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり

江風山月橋

伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり

噴逆春姫

伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり  
伊豆の住吉神社は伊豆の住吉神社なり是は流丹の御領なり

不備と云ふは... 一説は... 延... 延... 延...

西中村

日本川と隔る... 西中村

塔... 大... 大... 大...

中... 中... 中... 中...

う... 毎... 毎... 毎...

略... 略... 略... 略...

宋... 宋... 宋... 宋...

依... 依... 依... 依...

享... 享... 享... 享...

正... 正... 正... 正...

吉... 吉... 吉... 吉...

寺... 寺... 寺... 寺...

山... 山... 山... 山...

後... 後... 後... 後...

山... 山... 山... 山...

鐵... 鐵... 鐵... 鐵...

鐵... 鐵... 鐵... 鐵...

其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其...

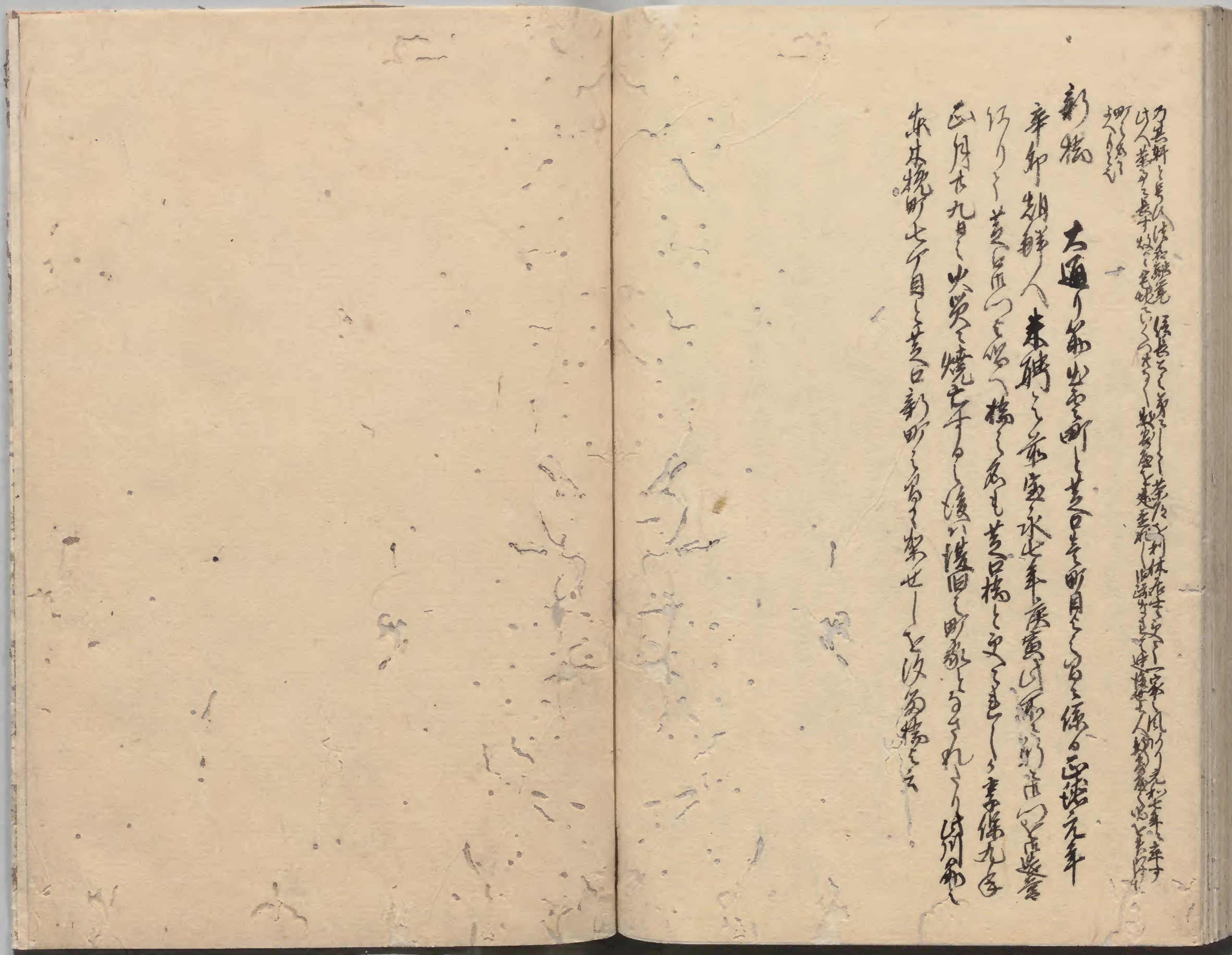
其... 其... 其... 其...

其... 其... 其... 其...

乃其軒と号人は名無き 倭長とて弟に... 宗乃と利林... 凡の元和元年... 幸す  
け人... 長す... 名... 数... 宗... 利... 凡... 元... 幸...  
地... 一

新稿 右通の節出所... 其日... 所目... 係... 正徳元年

幸卯朝鮮人 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘...  
乃り... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘... 奉誘...  
正月九日... 火災... 焼... 焼... 焼... 焼... 焼... 焼... 焼... 焼... 焼...  
本末... 七... 目... 七... 日... 新... 町... 名... 宗... 七... 一... 一... 以... 為... 橋... 云



清  
印  
一  
七  
十

真  
庫  
直

日  
本  
書  
院

Small red seal impression.

